

平成27年度

年 報

第 23 号



福井県自然保護センター

は じ め に

今日、私たちの生活を支える森林、河川、湿地、草地、湖沼、海洋などの生態系は、世界各地で悪化の一途をたどっているため、自然環境の保全・再生が私たち人類の最重要課題のひとつとなっています。福井県自然保護センターはこのような状況を踏まえ、本県の自然環境の実態把握に努めるとともに、県民の皆様に対し、その恩恵と保全の在り方について考える場を提供することを目的として、平成2年7月に開設されました。

当センターは、経ヶ岳の麓に広がる六呂師高原の一角に位置し、雑木林、湿原、草原、池沼、溪流などの多様な自然に囲まれています。また、六呂師高原は環境省の「全国星空継続観察」において、星空観察に適しているとの評価を度々受けた星空が美しい所です。さらに宿泊研修施設である県立奥越高原青少年自然の家が当センターに隣接しており、自然とのふれあいや体験・学習を深める上で、またとない好条件が揃っています。

また、当センターは開館以来、自然系展示、天体観望会、自然観察の森ガイド、県内各地での自然観察会や自然再生活動、資料収集や調査研究などの事業を通し、一貫して本県の自然の素晴らしさや楽しさを発信し、広く県民の中に、自然に親しみ、自然を守り育てる心を育んできました。近年の自然環境保全への関心の高まりや必要性を考えると、当センターの重要性はますます高まっているといえます。そのため当センターでは、当該年度の事業活動を取りまとめ、その歩みを記録として残す「年報」を毎年発刊しております。今後も当センターでは、この資料を基盤として時代や社会の情勢に即した自然環境の現状把握に努め、そこから得られた情報の発信と自然環境保全活動に努めてまいります。

なお最後に、日頃より当センターの事業を支えていただいております運営会議委員、ナチュラリストリーダー、関係団体の皆様など多くの方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

平成28年12月

福井県自然保護センター所長 松 村 俊 幸

目 次

I	自然保護センターの概要	1～4
1	施設の概要	1
2	施設の平面図・面積表	2
3	組織と事業概要	3～4
II	自然保護センターの事業の展開	5～25
1	展示事業	5
	(1) 常設展示 (2) 生体展示 (3) 写真展示など (4) 入館者数	
2	指導普及事業	6～17
	(1) 自然観察会などの企画開催 (2) 普及誌の発行	
	(3) インターネットによる自然情報の発信 (4) 自然愛護	
	(5) 自然に関する相談 (6) 館内・自然観察の森ガイド	
	(7) 重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア(重点活動地域)への支援事業	
	(8) 外来魚防除対策事業 (9) 特定外来生物ウチダザリガニ駆除活動	
	(10) 生き物百葉箱事業 (11) 天体観望会など	
3	研修養成事業	18
	(1) ナチュラリスト養成 (2) ナチュラリストリーダー養成 (3) 研修生の受け入れ	
4	資料収集事業	19
	(1) 標本資料など (2) 視聴覚資料 (3) 文献資料 (4) 天文写真資料	
5	調査研究事業	20～22
	(1) ガンカモ科鳥類生息調査(鳥類生息調査事業)	
	(2) カワウ生息調査(鳥類生息調査事業)	
	(3) 自然観察の森周辺環境調査	
	(4) ブナ科樹木の豊凶調査(ツキノワグマ保護管理計画推進事業)	
	(5) ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業	
	(6) ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発	
	(7) Ciconia(福井県自然保護センター研究報告)の発行	
6	その他	23～25
	(1) 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催 (2) 大型野生動物の放獣に関わる指導協力	
	(3) 職員の派遣 (4) 学会・研究集会・シンポジウムでの発表	
	(5) 委員の受託など (6) 展示協力など (7) 事業協力を行った関係団体	
III	そ の 他	26～33
1	1年のあゆみ	26～28
2	施設利用実績	29～30
3	運営会議	31
4	気象データ	31
5	関係条例・規則	32～33

I

自然保護センターの概要

1 施設の概要

1. 所在地：福井県大野市南六呂師169-11-2

2. 施設の概要

(1) 本館（平成2年度完成、平成14年度展示更新）

- ①面積 建て面積：1,151.13m² 延べ面積：2,111.27m²
- ②構造 木造・鉄筋コンクリート混構造3階建（地下1階、地上2階）
- ③施設 1階：展示室、レクチャーホール、ボランティアルーム、事務室等
2階：展示室、森の学習室、工作室、会議室等
地下：資料室、飼育室等

(2) 観察棟（平成元年度完成）

- ①面積 建て面積：209.62m² 延べ面積：418.86m²
- ②構造 鉄筋コンクリート3階建て
- ③施設 1階：プラネタリウム室（座席44名）、事務室
2階：野外観察室（観察用望遠鏡設置）
3階：天体観測室（80cm反射式望遠鏡1台、付属望遠鏡設置）

(3) 自然観察小屋2棟（平成3年度完成）

- ①面積 1棟の建て面積：19.72m² 1棟の延べ面積：27.36m²
- ②構造 木造2階建て
- ③施設 1階、2階：動物観察室

(4) 自然観察の森（平成4年度完成）

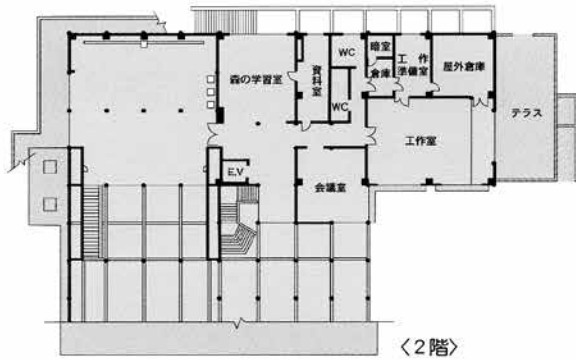
- ①面積 約28ha
- ②施設 広場：学習広場、ファミリー芝生広場
遊歩道：アプローチ道路やとんぼの小径など
湿原等：妻平湿原、馬取池、とんぼの池

3. 自然保護センター開館日

平成2年7月12日

2 施設の平面図・面積表

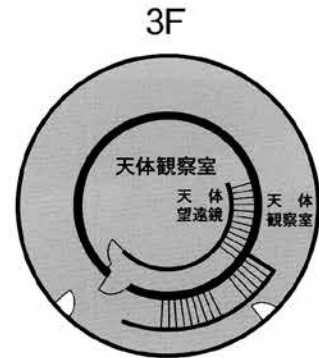
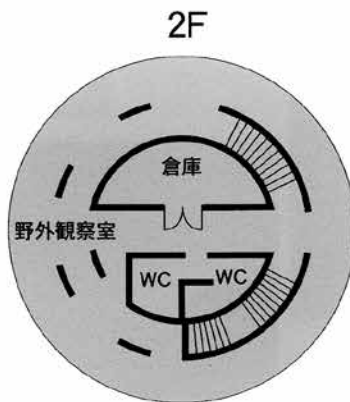
本館



本館面積表(2,111m²)

地階	1階	2階
一般資料室 69	展示室 313	展示室 277
乾燥資料室 43	レクチャーホール 165	森の学習室 60
飼育準備室 23	事務室 61	資料室 28
飼育室(4室) 54	所長室 20	作業室 84
機械室 95	ボランティアルーム 19	作業準備室 22
電気室 28	研究室 40	会議室 52
廊下・プロワー室 103	休憩室 28	倉庫 43
ポンプ室・エレベーター 他	情報資料室 35	暗室・便所・その他 67
	実験室 20	
	映写室 11	
	車庫 76	
	倉庫 29	
	廊下・更衣室・ポーチ 246	
	玄関・便所・他	
合計 415(m ²)	1,063(m ²)	633(m ²)

観察棟

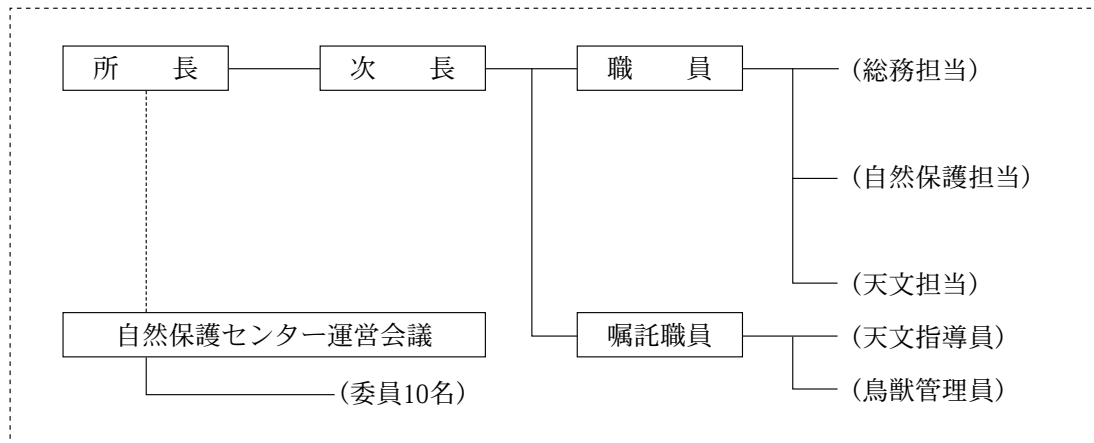


観察棟面積表(418m²)

階	室名	面積(m ²)	計
1	プラネタリウム室	45	132m ²
	ホール	41	
	事務室	16	
	玄関・倉庫・その他	30	
2	観察室	111	154m ²
	倉庫	15	
	その他	28	
3	天体観察室(内)	45	132m ²
	天体観察室(外)	67	
	階段	20	
合計			418m ²

- 1階 プラネタリウム室 44名収容 スクリーン直径6.5m
- 2階 野外観察室 50名収容 7台の野外観察用望遠鏡-動・植物の観察
- 3階 天体観察室 50名収容 口径80cmの反射望遠鏡1台 口径10cmの屈折望遠鏡2台
口径20cmの屈折望遠鏡1台 口径20cmの反射望遠鏡3台
TVカメラ装置の設置

3 組織と事業概要



■職員構成 (平成27年度)

職種 \ 担当	所長	次長	総務	自然保護・天文	計
事務		1	1	2	4
自然保護職	1			1	2
教職員				1	1
嘱託職員				2	2
計	1	1	1	6	9

■事業概要 (平成27年度)

1. 展示事業 ・ ・ ・ ・ ・ ○常設展示 ○生体展示 ○写真展示(随時) など
2. 指導普及事業 ・ ・ ・ ○自然観察会・自然講座・天文教室の実施
○普及誌の発行、自然情報・イベント情報の発信
○自然愛護事業(傷病鳥獣救護を含む)の実施
○自然に関する相談、対応
○館内・自然観察の森ガイドの実施
○重要里地里山の保全活動、生き物共生ホットエリア等への支援事業
○外来魚防除対策事業 ○生き物百葉箱推進事業
○天体観望会・プラネタリウムの実施
3. 研修養成事業 ・ ・ ・ ○ナチュラリスト、ナチュラリストリーダーの養成
○研修生の受け入れ
4. 資料収集事業 ・ ・ ・ ○標本・視聴覚・文献・天文写真資料の収集および保管
5. 調査研究事業 ・ ・ ・ ○ガンカモ科鳥類生息調査 ○カワウ生息調査
○自然観察の森周辺環境調査
○ブナ科樹木の豊凶調査(ツキノワグマ保護管理計画推進事業)
○ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業
○ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発
○Ciconiaの発行

6. その他
- 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催
 - 大型野生動物の放獣に関わる指導協力
 - 職員の派遣
 - 事業協力を行った関係団体

Ⅱ

自然保護センターの事業の展開

1 展示事業

○自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開し、県民に自然の素晴らしさと保護の重要性を伝えた。

(1) 常設展示

本館（平成14年度に更新）

【1階】

「自然観察へ行こう」
「福井の水辺を考える」
「刈込池のブナ林」
「レクチャーホール 標本展示」

【2階】

「森の仲間たち」 「福井の自然観察三昧」
「山のめぐみ」 「失われ行く生物多様性」
「生物を守る努力」
「地球環境問題を考える・エコロ人度チェック」
「森の学習室」 「ビデオコーナー」

観察棟

【1階】

「太陽系展示パネル」
「天体写真」コーナー

【2階】

「隕石」コーナー
「彗星」写真コーナー

(2) 生体展示

- ・生息域外保全事業で当センターにおいて増殖しているヤシャゲンゴロウ成虫の展示
- ・当センター周辺に生息するシマヘビ、アオダイショウ、アズマヒキガエル等の展示
- ・北潟湖に生息するテナガエビ、モクズガニや池ヶ原湿原に生息するドジョウ等の展示
- ・越前市白山に生息していたスッポン、イシガメ等の展示

(3) 写真展示など

- ・年間を通し、「自然保護センターで保護飼養された動物たち」の写真展示を、本館1階で行った。
- ・季節にあわせて「自然観察の森で見られる花や果実」、「冬芽」の写真展示を、本館1階で行った。
- ・季節ごとの天体写真（M51子持ち銀河、M104ソンプレロ銀河等）、ミラクル双眼鏡の展示やプラネタリウム番組ポスターの掲示を、本館2階で行った。
- ・冬期間の1～2月に冬の野鳥レストランを本館2階（森の学習室）に開店し、室内で「エサ台や自然観察の森に来る野生鳥獣」、「エサ台にくる野鳥たち」の写真展示を行い、本館1階（レクチャーホール）で鳥獣の剥製の写真を展示した。また、野鳥写真撮影用に、屋外に撮影ボックス（2人収容）を設置した。
- ・彗星の関心を深めるため、これまで撮影した彗星の写真を展示した。

(4) 入館者数

	平成27年度人数（人）	累計人数（人）
本館	18,807	548,843
観察棟	11,493	373,155
計	30,300	921,998

ただし、観察棟入館者数は、天体観望会の参加人数を含む。

2 指導普及事業

○自然保護の指導普及のために普及誌の発行、自然観察会、傷病鳥獣の救護、自然観察の森ガイド、天体観望会などを行った。自然観察会や天体観望会等の告知や季節の自然情報について、ホームページやメールマガジンを通じて情報発信を行った。里地里山保全のための作業や調査を各地で実施した。自然保護活動の普及・啓発のために、生き物百葉箱事業に登録した各団体への指導や活動発表会などを行った。

(1) 自然観察会などの企画開催

自然教育や自然保護の普及啓発のために、以下のとおり自然観察会等を企画、開催した。

◆自然観察ウォーク

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
－生きもの春ものがたり－ 「敦賀西浦周辺の自然」	4月18日(土)	敦賀市西浦	26
快晴に恵まれ、常宮神社にて紅枝垂れ桜やキクモモなど春の花々に出迎えを受け、敦賀半島を北上して立石灯台に上るコースで灯台では敦賀海上保安部の方々による概要・歴史的な説明と内部見学もでき、内容の濃い観察会となった。			
－生きもの初夏ものがたり－ 「塩の道とホノケ山」	5月23日(土)	南越前町奥野々	28
古くからの人馬の往来で踏み込まれた切りき道を歩いた。ホノケ山の山頂から丹南の平野や敦賀湾・日本海の展望が開けた。			
－生きもの秋ものがたり－ 「馬借街道の自然」	9月26日(土)	南越前町	33
右近家周辺、北前船主邸宅群にて馬借街道の説明を受け、途中のお題目で甲楽城断層や越前海岸の巨岩・地形の観察やそこに生える多様なシダ類の観察を行った。			
－六呂師高原ものがたり－ 「六呂師高原の自然とウォーク」	7月11日(土)	大野市六呂師高原	37
アナグマに遭遇とハブニングもあったウォークであったが、牧場内の林道から池ヶ原に向かうコースは、景観もよく池ヶ原湿原を見渡せ、大変良いウォークとなった。			
－生きもの晩秋ものがたり－ 「松岡古墳群の自然」	11月7日(土)	永平寺町松岡	42
地元の方が散策路の草刈りを実施していただき歩きやすかった。ルーペによるコケや水草観察に木の实取りや年輪測定などを行った。			
－生きもの冬ものがたり－ 「スノーシューで森の探検！」	2月27日(土)	自然保護センター	26
新雪の降った翌日で晴れたため、スノーシューで散策するには絶好の日となり、今回はいつになく子供の参加者が多くスノーシューで歩くと雪の中に足が沈まず歩けるので、みなさん驚いていた。			
池ヶ原湿原ミニウォークシリーズ 「－湿原の息吹－ レンゲツツジとモリアオガエル」	5月31日(日)	勝山市池ヶ原	22
「－湿原に賑わい－ ミズチドリとトンボたち」	7月5日(日)		12
「－湿原の彩り－黄色と紫色」	8月9日(日)		17
2班体制でゆっくりとしかも充実した観察会ができた。ミズチドリの匂いを嗅いでもらったり、また飛んでいるトンボやチョウを捕まえて子供たちに触ってもらったりもした。			

◆夏休み特別企画

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
作ってみよう植物標本	7月19日(日)	自然保護センター	25
テーブルごとに講師が付きスムーズに標本制作を行えた。作業を始めると段々と熱心に作る姿が良くなり、標本の出来も良かった。			
作ってみよう昆虫標本	8月1日(土)	自然保護センター	22
暑すぎることもなく、ある程度の昆虫が採取できた。今回から年齢でコースを分けたため低学年に無理のない昆虫採集ができた。			

◆愛鳥教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
一生きもの冬鳥ものがたり 「カモ類イカモ」	11月21日(土)	坂井市加戸	24
朝の小雨により当日キャンセルが7名あったが、天候も回復し無事に観察会を行えた。			

◆天文教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
スターチャレンジⅠ 星座をさがそう(夏) 星座をさがそう(秋)	8月7日(金) 10月3日(土)	自然保護センター 本館・観察棟	21 9
(夏)夏休みの自由研究にもなるため、定員以上の申し込みがあった。星座早見盤の作製後、曇り空だったため、プラネタリウムで使い方の練習を行ったが好評だった。その後、天気が好転したため外で星座探しと解説を行った。たくさんの参加者に満足していただけた。 (秋)夏とは違い参加者が少なかったが、非常に天気が良く参加者に満天の星空を楽しんでいただけた。			
スターチャレンジⅡ 天体望遠鏡を作ってみよう!	7月31日(金)	自然保護センター 本館・第1駐車場	47
夏休みの自由研究にもなるということで、人気のあるイベントである。望遠鏡作成を終えてからの天体観望では、満月が出て導入の練習がしやすかった。土星や国際宇宙ステーションなども見ることができて、アンケートの満足度が高かった。			
スターチャレンジⅢ ペルセウス座流星群をみよう	8月12日(水)	自然保護センター 第1駐車場	中止 (申込み111名)
雨天のため中止。			
スターチャレンジⅣ 親子でじっくり天体観望	10月11日(日)	自然保護センター 観察棟	20
人数を限定して、じっくりと家族で天体観望をしていただくイベントだったが、雨天で星を見ていただくことはできず残念だった。少しでも学んで帰っていただきたいということで、ドームでの解説、プラネタリウムに加え、星座早見盤の使い方練習を行った。			
スターチャレンジⅤ 天体撮影に挑戦!(直焦点撮影)	11月2日(月)	自然保護センター 観察棟	4
11/2が雨天により延期になったため、3名のキャンセルが出てしまったのが残念だった。翌3日は稀に見る晴天で絶好の天体撮影日和となった。参加が4名だったため、講師の対応も手厚くすることができた。			
スターチャレンジⅥ 天体撮影に挑戦!(星野撮影)	11月13日(金)	自然保護センター 観察棟	中止 (申込み13名)
曇・雨天につき、当日・予備日ともに中止			

(2) 普及誌の発行

自然保護の普及啓発誌である『ナチュラリスト』を年間3号、発行した。

発行年月日	巻号	通算	特集内容
平成27年8月11日	第26巻1号	75号	ブナの森
平成27年12月10日	第26巻2号	76号	新しくなった自然体験講座
平成28年3月15日	第26巻3号	77号	ふくいSATOYAMA学級2016行事案内

(3) インターネットによる自然情報の発信

① ホームページのリニューアル

自然保護センターのホームページが公開後10年を経過したことからデザイン、サイト構成等の全面見直しを行い、平成27年7月より利便性の高いホームページにリニューアルした。それに伴い、以下のコーナーを設け、季節に応じた自然情報の発信を行っている。

- ・ 季節の生きもの情報（センター周辺の植物・動物の情報を発信）
- ・ 季節の星空情報（毎月の天文現象、天文トピック、星空情報等の発信）

② フェイスブックページの開設

自然保護センターの事業や六呂師高原の自然情報をより多くの方々にお知らせするため、平成28年3月よりフェイスブックページを開設した。動画や360度カメラでの映像を用いて、より臨場感のある自然情報を中心に発信している。

③ ホームページによる情報発信（フェイスブックページの更新回数・アクセス件数は含まず）

更新：年97回、年間アクセス件数：29,479件

④ メールマガジン「みみずく通信」による情報発信

- ・ 購読者の増加を図るため、携帯電話用のメールマガジンをPC版と併せて配信
- ・ PC版「みみずく通信」 配信回数：年間42回、累計160号（2006年1月より）
配信人数：463人
- ・ 携帯版「みみずく通信」 配信回数：年間43回、累計97号（2010年11月より）
配信人数：74人

(4) 自然愛護

傷病鳥獣の救護は、社団法人福井県獣医師会への救護委託および傷病鳥獣保護飼養ボランティア制度の活用によって実施した。平成27年度の傷病鳥獣の救護、治療件数は全体で337件、392個体であった。このうち、平成27年度に自然保護センターが収容した傷病鳥獣は87件135個体であった。その内訳は鳥類81件128羽(94.8%)、哺乳類6件7頭(5.2%)であった。鳥類ではキジ21羽(16.5%)、ツバメ16羽(12.6%)、スズメ15羽(11.8%)の順で多かった。哺乳類ではタヌキが3頭(42.9%)、ムササビが2頭(28.6%)保護された。

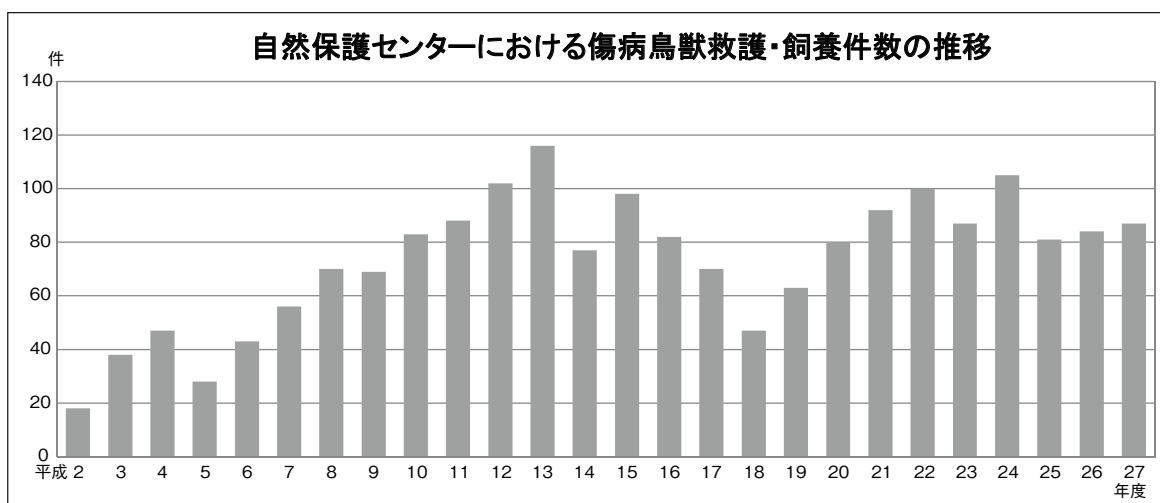
また、動物病院に持ち込まれた傷病鳥獣は250件、258個体であった。その内訳は鳥類232件240羽(93.0%)、哺乳類18件18頭(7.0%)であった。鳥類では、スズメ46羽(19.2%)、ツバメ42羽(17.5%)、ドバト17羽(7.1%)、の順で多かった。哺乳類では、タヌキ8頭(44.4%)、ノウサギ2頭(11.1%)、同じくアブラコウモリ2頭(11.1%)が保護された。

救護個体の放野率（放野個体数／放野個体数＋死亡・安楽殺個体数）は、64.2%であった。傷病鳥獣保護飼養ボランティアへの飼養委託は、2件2個体であった。また、委嘱獣医師による直接委託は6件6個体であった。

① 傷病鳥獣の保護飼養数（自然保護センター取扱い）過去10年間のみ詳細を掲載（件・個体数）

分類		平成年度	2～17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	累計
鳥類	件数		912	36	51	67	79	89	74	96	75	75	81	1,635
	個体数		1,338	67	70	105	111	128	104	121	116	96	128	2,383
哺乳類	件数		173	11	12	13	13	11	13	9	6	9	6	276
	個体数		190	13	13	15	16	12	29	9	7	9	7	320
計	件数		1,085	47	63	80	92	100	87	105	81	84	87	1,911
	個体数		1,528	80	83	120	127	140	133	130	123	105	135	2,703

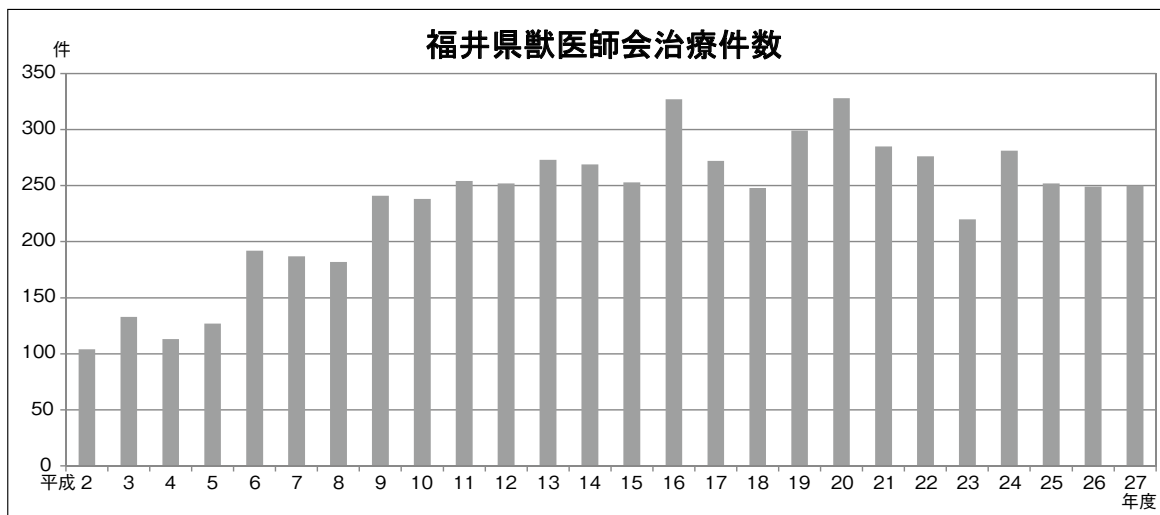
※ 福井県獣医師会による治療後、自然保護センターが扱った個体数も含む。



② 傷病鳥獣の治療数（福井県獣医師会取扱い）過去10年間のみ詳細を掲載（件・個体数）

分類		平成年度	2～17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	累計
鳥類	件数		3,132	219	260	289	256	260	201	260	228	227	232	5,564
	個体数		3,175	245	260	300	256	267	208	270	241	234	240	5,696
哺乳類	件数		285	29	39	39	29	16	19	21	24	22	18	541
	個体数		294	29	40	39	35	16	19	21	24	22	18	557
計	件数		3,417	248	299	328	285	276	220	281	252	249	250	6,105
	個体数		3,469	274	300	339	291	283	227	291	265	256	258	6,253

※ 自然保護センターから治療のために委嘱獣医師に搬送した個体数も含む。



③ 救護した鳥獣種とその結果 (1/2)

(個体数)

鳥 獣 名	自然保護センター取扱い						福井県獣医師会取扱い						総計 (のべ)			
	放 野	死 亡	安 楽 死	移 管 (自然保護センター)	飼 養 継 続 中	そ の 他	合 計	放 野	死 亡	安 楽 死	移 管 (自然保護センター)	移 管 (ボランティア)		飼 養 継 続 中	そ の 他	合 計
鳥類																
シロエリオオハム									1						1	1
カンムリカイツブリ								1	1						2	2
オオミズナギドリ	1						1	1			1				2	3
ゴイサギ	5						5		1	2	2				5	10
ダイサギ										1					1	1
チュウサギ	1						1			1					1	2
コサギ										2					2	2
アオサギ	1						1	1		1					2	3
マガモ								1							1	1
カルガモ	5	6					11	1	1						2	13
キンクロハジロ								1							1	1
スズガモ								1							1	1
ミサゴ											1				1	1
トビ	3						3	3	2	2	1				8	11
ハヤブサ	1						1				1				1	2
チョウゲンボウ		2					2				2				2	4
キジ	8	13					21		2		1				3	24
オオバン									1						1	1
コオバシギ									1						1	1
タシギ									1						1	1
オオセグロカモメ									1						1	1
カモメ								3							3	3
ウミネコ								2							2	2
カワラバト								1							1	1
キジバト	1	1					2	8	4	2	1				15	17
アオバト	1						1	1			1				2	3
ジュウイチ		1					1				1				1	2
コノハズク								1							1	1
オオコノハズク	1						1									1
アオバズク								2							2	2
フクロウ	2		1				3		1		3				4	7
カワセミ									1						1	1
ヒバリ	1						1									1
ツバメ	12	4					16	16	19	3	4				42	58
コシアカツバメ	5						5	1							1	6
イワツバメ								1							1	1
ハクセキレイ									2						2	
セグロセキレイ	8	3					11	1			1				2	13
ヒヨドリ	2						2	1	1		1				3	5
イソヒヨドリ								1	2						3	3

③ 救護した鳥獣種とその結果 (2/2)

(個体数)

鳥 獣 名	自然保護センター取扱い							福井県獣医師会取扱い							総計 (のべ)	
	放 野	死 亡	安 楽 死	移 管 (自然保護センター)	飼 養 継 続 中	そ の 他	合 計	放 野	死 亡	安 楽 死	移 管 (自然保護センター)	移 管 (ボランティア)	飼 養 継 続 中	そ の 他		合 計
トラツグミ									1						1	1
シロハラ											1				1	1
ツグミ	1						1	3	1						4	5
ウグイス								1							1	1
オオヨシキリ								1							1	1
メボソムシクイ									1						1	1
キビタキ									1						1	1
オオルリ		1					1				1				1	2
コサメビタキ								1							1	1
エナガ									1						1	1
シジュウカラ	1	1					2				1				1	3
メジロ	1						1									1
ホオジロ		1					1		1						1	2
カシラダカ	1						1									1
カワラヒワ	1	1					2									2
イカル								1							1	1
シメ	2						2	1							1	3
スズメ	7	8					15	9	24	1	5	7			46	61
ムクドリ	1	5					6	5	4	1	2	1			13	19
カケス								1							1	1
ハシボソガラス		1					1	3	1		1				5	6
ハシブトガラス	1						1	1							1	2
ドバト	3						3	7	6	3	1				17	20
セキレイ s p	2						2		2		1				3	5
鳥類 (種不明)								4	2	4	1				11	11
鳥類合計	79	48	1				128	87	87	23	35	8			240	368
哺乳類																
チョウセンイタチ									1						1	1
アブラコウモリ								1	1						2	2
ニホンノウサギ								1		1					2	2
ムササビ	2						2				1				1	3
ヤマネ	1						1									1
タヌキ	3						3	2	3	3					8	11
イノシシ									1						1	1
カモシカ	1						1	1							1	2
イタチ									1						1	1
獣類 (種不明)									1						1	1
哺乳類合計	7						7	5	8	4	1				18	25
総 計	86	48	1				135	92	95	27	36	8			258	393

④ 傷病鳥獣保護飼養個体の委託および譲渡

(件・個体数)

	年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡
鳥類	件数	9	0	4	0	3	0	7	0	8	0
	個体数	10	0	4	0	3	0	7	0	8	0
哺乳類	件数	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0
	個体数	3	0	2	0	3	0	0	0	0	0
計	件数	10	0	6	0	5	0	7	0	8	0
	個体数	13	0	6	0	6	0	7	0	8	0

※委託には傷病鳥獣保護飼養ボランティアへの飼養委託、または委嘱獣医師による直接委託がある。
 ※譲渡には公的動物園等への譲渡がある。

(5) 自然に関する相談

県民や行政などからの自然に関する相談や専門的な質問に回答した。

平成27年度の方野別、内容別の相談件数

分野別	件数
哺乳類	31
鳥類	122
その他脊椎動物	4
無脊椎動物	1
植物	4
地形・地質	0
天体・天文	0
その他	14
計	176

内容別	件数
傷病鳥獣	138
自然一般	11
自然学習	0
マスコミからの問い合わせ	5
行政からの問い合わせ	9
その他	13
計	176

(6) 館内・自然観察の森ガイド

- ・「四季の自然観察シリーズ」として、4月～10月の日曜日、祝日に一般来館者を対象に1日2回、自然保護センター館内および自然観察の森のガイドを行った。(実施：37回、参加者：424人)
- ・「冬の野鳥レストラン」として、1月～2月の土・日・祝日に野鳥観察ガイドを行った。(実施：10回、参加者801人)
- ・事前申し込みによる団体を対象に、センター周辺で「館内・自然観察の森ガイド」を実施した。(32団体、1385人)

平成27年度館内・観察の森等解説ガイド実績 (一般)

月	四季の自然観察シリーズ								冬の野鳥レストラン		
	4	5	6	7	8	9	10	計	1	2	計
回数(回)	3	8	4	5	5	7	5	37	5	5	10
参加者(人)	40	78	30	37	57	128	54	424	252	549	801

(7) 重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア(重点活動地域)への支援事業

県は里地里山の絶滅危惧種が集中して分布している地域として、平成16年度に「福井県重要里地里山」30箇所を指定している。これらの地域において生物多様性の保全と活用を図るため、地域住民や県、市町、専門家等が連携して各地域の里地里山を計画的に保全する活動を支援している。

特に希少野生生物が分布する「白山・坂口」、「三方五湖周辺」、「中池見・池河内湿原」、「東尋坊・

北潟湖]、「平泉寺・奥越高原」の県内5地域を「生き物共生ホットエリア（重点活動地域）」として選定し、重点的に自然再生活動を推進している。

平成27年度において、自然保護センターでは坂井市陣ヶ岡丘陵地域(安島地区)、勝山市北谷町(小原地区)、六呂師高原の3地域において団体等の活動支援を実施した。

ホットエリア	地域名	活動団体	保全対象種
東尋坊・北潟湖地域	坂井市陣ヶ岡丘陵地域周辺	陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会	ゲンゴロウ類、ネアカヨシヤンマ、オオコオイムシ、他
平泉寺・奥越高原地域	勝山市北谷町	小原ECOプロジェクト	ミチノクフクジュソウ、オオミズゴケ、他
	六呂師高原周辺	池ヶ原湿原連絡協議会	ミズチドリ、トキソウ、ノカンゾウ、カキラン、他

①「福井県重要里地里山」における講師派遣

里地里山保全活用支援事業の実施地区をはじめ、それ以外の地区における里地里山保全の市民活動を支援するため、地元団体および学校が主催する環境教育および保全活動に対し、下記のとおり講師を派遣した。計6回（3地域270人参加）実施した。

重要里地里山地域名	演題	場所	実施年月日	主催者	参加人員
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ保全活動	勝山市小原地区	平成27年4月15日 平成27年7月9日 平成27年10月15日	小原ECOプロジェクト	49 41 39
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原自然観察会	勝山市池ヶ原地区	平成27年5月1日 平成27年11月2日	勝山市立平泉寺小学校	31 52
坂井市陣ヶ岡丘陵地域	坂井市陣ヶ岡丘陵地自然観察会	えろものふけ、三国町海浜自然公園	平成27年10月27日	陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会	58

②自然環境保全地域等管理事業（六呂師高原湿原植生管理支援事業）

池ヶ原・妻平湿原では、平成21年度から24年度の緊急雇用創出事業により湿原の植生管理を実施し、希少かつ独自の植生やトンボ類等の多様性を再生させた。その後もこれらの景観や生物多様性を今後も維持していくため、再び成長するヨシやハンノキ等の植生管理を継続して実施している。

ア) 妻平湿原

目的： 妻平湿原本来の植生を保全するため、ヨシおよびハンノキを管理し、光環境を改善するとともに水深を確保する。

内容： 妻平湿原はミツガシワの県内最大級の生育地であり、他にも多様な湿性植物が生育し、かつて水田であった部分（約1,800㎡）と、以前から湿原であった部分から成り立っている。かつて水田であった部分は、上流から土砂や栄養分の流れ込みが増加し、ヨシ、マコモ等の高茎草本が繁茂しやすい状態になっている。このため、トンボ類の生息にとって好適な開放水面の面積が減少し、以前に比べオオルリボシヤンマ等が観察できなくなっている。

そこで、平成27年度は、トンボ類の生息環境改善を目的に、7月28日に職員作業によるヨシ、マコモ等の高茎草本除去を実施した。また、湿原周囲の園路草刈りを実施し、来館者の湿原の利用環境の向上を図った。

イ) 池ヶ原湿原

目的： 湿原本来の植生を保全するため、植生保全作業の実施とあわせて、外来植物の除去および園地の維持管理を行う。

内 容： 池ヶ原湿原は、ミズチドリやオオミズゴケなど多様な湿性植物が生育する嶺北最大規模の湿原である。しかし、平成20年度以前はヨシ・低木・ハンノキが繁茂し、丈の低い湿性植物の生育を阻害していた。また、湿原付近に特定外来生物オオハンゴンソウが侵入し、かつ管理頻度の低下に伴って園地のヤブ化が進んでいたが、平成21～24年度に緊急雇用創出事業による植生管理（ハンノキ、低木の除去及びヨシの刈り取り）、地下水位の上昇・水質の維持、特定外来生物オオハンゴンソウの除去等の作業の実施により湿原植生が回復した。平成25年度、「池ヶ原湿原連絡協議会」を設立し、自然保護センターを事務局とする、県、市、地域住民・企業、専門家等の多様な主体の連携による湿原保全の体制を作り保全活動を実施している。

平成27年度は、池ヶ原湿原連絡協議会の活動として、連絡協議会の開催、ヨシ刈り活動イベントの開催や平泉寺小学校の環境教育の支援を行った。また、湿原内の植生保全のため、ヨシやスキの刈り取り、ハンノキ等低木の抜根を委託により実施した。さらに、老朽化した池ヶ原湿原のトイレ修繕工事（水洗化）を奥越土木事務所に施工委託して実施した。

池ヶ原湿原連絡協議会の活動状況

実施日	場 所	イベント名	概 要	参加人員
平成27年6月4日	奥越高原牧場	連絡協議会 (第1回目)	H27年度活動計画について 湿原現地確認の実施	18
平成27年6月27日	池ヶ原湿原	ヨシ刈り活動 (春)	ヨシ刈り、ハンノキの引き 抜き	52
平成27年10月31日	池ヶ原湿原	ヨシ刈り活動 (秋)	ヨシ刈り、ハンノキの引き 抜き	50
平成28年2月17日	勝山市教育会館	連絡協議会 (第2回目)	H27年度事業実施結果報告 H28年度事業計画について	18

植生保全のための委託作業状況

実施日	作 業 内 容	作業人員
平成27年7月2日	池ヶ原湿原、妻平湿原高茎草本刈り取り	5
平成27年7月31日	池ヶ原湿原、草刈り、ハンノキ伐採、オオハンゴンソウ除去	5
平成27年11月25日	池ヶ原湿原、ハンノキ伐採、ハンノキ切株の覆土	5
計 3日		15

(8) 外来魚防除対策事業

外来魚生息・繁殖による生態系への被害拡大防止のため、地元住民、市町職員への外来魚問題の普及啓発と外来魚駆除技術向上のため、ため池（2箇所）において水抜き、駆除作業を地元住民とともに実施した。

実施地区：福井市旧清水町（竹生池、和田池）

作業内容：平成27年10月18日（日）

9：00～9：40 外来生物に関する講義（講師：自然再生支援隊 白澤照久氏）

10：00～14：00 外来魚の駆除作業

駆除結果

竹 生 池		和 田 池	
種 名	捕獲数（匹）	種 名	捕獲数（匹）
オオクチバス	21	ブルーギル	9,301
ブルーギル	656	アメリカザリガニ	77
ウシガエル(オタマジャクシ)	28,700		
アメリカザリガニ	68		
ライギョ	12		
計	29,457	計	9,378

(9) 特定外来生物ウチダザリガニ駆除活動

九頭竜湖に定着したウチダザリガニによる生態系被害防止と生息状況把握を目的に、カゴ罠による捕獲・駆除を実施した。平成27年は9月10日～27日(17日間)に、箱ヶ瀬地区面谷橋下に7個のカゴ罠を設置し、112個体を捕獲した。捕獲個体のサイズは、 $12.1 \pm 1.5\text{cm}$ (平均±標準偏差)であった。

捕獲の詳細と駆除結果

年度	カゴ罠設置期間(日数)	カゴ罠回収回数	カゴ罠設置個数	捕獲数(匹)
平成26年	9月9日～10月18日(39日間)	4回	10個	125
平成27年	9月10日～9月27日(17日間)	3回	7個	112

(10) 生き物百葉箱事業

小学校などの子どもを含む団体が自主的に行う身近な自然環境の観察や調査を支援し、継続的な調査や生態系の保全・再生の必要性を学ぶことを目的とした事業で、継続的な自然観察をする団体の登録、登録団体への教材(生き物図鑑下敷き・ワークシート)の配布、専門家など(ゲストティーチャー)の派遣を行った。

- ・登録人数(団体数) 4,743人(121団体)
- ・ゲストティーチャーの派遣回数 20回(派遣人数 年間45人、受講者人数 年間711人)

(登録グループ別内訳)

グループ名	登録数	登録人数
学 校	35	1,677
団 体	54	2,467
放課後クラブ	2	86
公 民 館	12	367
子 供 会	1	31
一 般	16	60
エンゼルランド	1	55
合 計	121	4,743

(11) 天体観望会など

①天体観望会

一般来館者を対象に、4月～12月、3月の土曜日の夜に「週末天体観望会」を実施した。(曇天・荒天時はプラネタリウム)また、「昼の天体観望会」は、日中の来館者を対象に、太陽や金星、1等星などの観望を行った。この他、事前申し込みによる団体を対象に天体観望会を実施した。

	実施回数(回)	参加者数(人)
一般対象 週末天体観望会	39	1,028
一般対象 昼の天体観望会	182	1,210
団体対象 天体観望会	57	2,705
計	278	4,943

②プラネタリウム・冬の星空ガイド

一般来館者および事前申し込みによる団体を対象に、プラネタリウムの投影を行った。一般を対象としたプラネタリウムは、4月～12月、3月の土曜日・日曜日・祝日に1日4回実施した。また、1～2月の土曜日・日曜日・祝日には「冬の星空ガイド」として、本館で天体シミュレーションソフトやパワーポイントを用いた星座解説や星座物語の上映を実施した。

	実施回数 (回)	参加者数 (人)
一般対象 プラネタリウム (土・日曜日・祝日) (うち 冬の星空ガイド1～2月)	265 (27)	2,356 (155)
団体対象 プラネタリウム (うち 冬の星空ガイド1～2月)	81 (4)	3,109 (182)
計 (うち 冬の星空ガイド1～2月)	346 (31)	5,465 (337)

③特別天体観望会

特異な天文現象に合わせて、冬期を除いて年間9テーマ(のべ13日間)の特別天体観望会を計画・実施した。悪天候時はプラネタリウムの投影や天体ドームにおいて、望遠鏡の紹介や天文に関する解説などを実施した。

テ ー マ	実施月日	参加人数 (人)
皆既月食をみよう	4月4日 (土)	61
観望会の始めに金星を観望していただくことができたが、その後は雲が出て肝心の皆既月食は観望してもらえなかった。天体が見えない時間にプラネタリウムや解説を実施したが、十分に満足してもらえない参加者もいた。天体が見えない時間に楽しんでいただけるようにする必要がある。		
ゴールデンウィークの夜 －月・木星をみよう－	5月2日 (土) 5月3日 (日) 5月4日 (月)	253
3日間の観望会のうち、晴天だったのは初めの日だけだったが、たくさんの参加者に観望していただけてよかった。ただ、参加者が多すぎて、十分な観望時間を確保できなかったため、改善が必要である。天気が悪い日の参加者にも満足をしていただけた。		
七夕の夜 －願いをこめて－	7月7日 (火)	12
平日開催で雨天だったので、参加者は少なかった。ドームで天の川や銀河についての解説、プラネタリウムでは七夕の解説を行った。		
じっくり見てみよう (1) 土星のふしぎ	7月19日 (日)	41
日中はずっと曇っていたが、観望会の開始頃から天気が好転し、徐々に参加者が増えていった。日中も好天であれば、さらに多くの参加者が見込めただけに残念であるが適度な人数でじっくりと観望していただけたため、満足度は高かった。		
お盆には星を…	8月14日 (金)	119
お盆ということもありたくさんの参加者があった。開始直後は曇りがちであったが徐々に天気が好転し、たくさんの天体を観望していただけた。アンケート結果では家族や知人に勧められて来られるケースが多いので、普段の週末観望やプラネタリウムでの接客サービスの向上を心がけていきたい。		
シルバーウィークの夜 －月・天王星・海王星をみよう－	9月19日 (土) 9月20日 (日) 9月21日 (月)	349
5連休のシルバーウィークということで、たくさんの参加者があった。雲が出て星が見えないとき、天文リーダーがその場で天体や星座の話をしてくださっているが、それが好評で満足される参加者が多い。この観望会では事前に奥越・吉田郡の小中学校全生徒にチラシを配布した。その結果、普段よりも地元の参加者が増えたので、連休の観望会の時にはチラシの配布を継続していきたい。		

中秋の名月	9月27日(日)	129
<p>開始時に六呂師は曇っていたが、徐々に雲が晴れて参加者に名月を観賞していただくことができた。野外にブルーシートを敷いて、肉眼や双眼鏡、望遠鏡で観望するコーナーを設けたが好評だった。巨大望遠鏡だけでなく、野外での観望コーナーを設けることで、たくさんの参加者により多くの観望時間を提供できるので、来年度から特別観望会で実施したい。</p>		
じっくり見てみよう(2) 月の表面はおもしろい!	11月22日(日)	19
<p>開始時に雲が多かったため月は見えていなかったが、解説やプラネタリウムで対応しているうちに、月が見えてきた。結果として多くの方に月の観望を楽しんでいただくことができてよかった。</p>		
部分日食をみよう	3月9日(水)	1
<p>当日は日本全域で雨天であったため、参加者が1名だけであった。NHKや福井新聞の取材があり、ニュースや朝刊で取り上げられた。</p>		
計9テーマ	のべ実施日数:13日	984

3 研修養成事業

○自然保護に関心を持つ県民を養成するために、ナチュラリスト登録、リーダー養成講習会等の事業のほか、インターンシップをはじめとする各種研修生の受け入れを行った。

(1) ナチュラリスト養成

福井県ナチュラリスト事務局（自然保護センターと海浜自然センター内に設置）で、自然に関心のある人を「福井県ナチュラリスト」として登録した。登録者には、ナチュラリスト登録証、ナチュラリスト手帳を登録時に配付した。

希望者には郵送料と引き替えに、福井の自然情報誌「ナチュラリスト」（年3回発行）とカレンダー、年間行事予定を郵送した。また最近の登録者および最近までナチュラリスト郵送を希望していた登録者には、年間行事案内を年度初めに郵送した。

平成28年1月より、登録者数の増加とサービスの向上を図るため、以下の2つの取り組みを行った。

① ナチュラリスト登録とメルマガ登録の一本化

ナチュラリスト登録の際に、メルマガ「みみずく通信」に同時に登録をしていただくように申込用紙を新しく作成した。登録者にはメルマガを通じて、センターのイベント情報、六呂師の自然情報（花、昆虫、野鳥など）、星空情報を発信した。

② ナチュラリスト登録特典グッズの進呈

ナチュラリスト登録1名につき、以下の書籍を1冊進呈した。

- ・鳥たちの四季－福井の野鳥と自然－
- ・自然は友達－ふくいの植物－
- ・自然は友達－ふくいの昆虫－
- ・自然は友達－ふくいの野鳥－
- ・自然は友達－ふくいの動物－
- ・自然は友達－ふくいの地質・地形－

	平成27年度新規登録者数	累 計
福井県ナチュラリスト登録者	452人	10,192人
（自然保護センター分）	（447人）	（8,321人）
（海浜自然センター分）	（5人）	（1,871人）

(2) ナチュラリストリーダー養成

ナチュラリストを指導するリーダーの養成を目的に、日本自然保護協会と共催で自然観察指導員講習会を開催した。平成27年度は2名のナチュラリストリーダー新規登録があり、累計の登録者数は109人となった。

テ ー マ	実施年月日	場 所	参加人数
NACS-J自然観察指導員講習会	平成27年6月6日（土） ～7日（日）	鯖江青年の家	52人

以前は2泊3日で行われていた講習会だが、近年は1泊2日で同一内容を扱うため内容の濃い過密な日程での講習会となった。しかし、受講者達は皆熱心にプログラムに取り組み、活気あふれる講習会となった。受講者全員が「ガイド形式の観察会」ではなく、今回の講習会で得たノウハウを生かし、「参加・体験型の観察会」を企画していたことは、講習会が成功したことを意味していると言える。

(3) 研修生の受け入れ

大野市尚徳中学校より職場体験学習として依頼のあった中学生2名を受け入れた。当センターでは福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会の要請を受け大学生のインターンシップ研修を行っているが、平成27年度は受け入れがなかった。

4 資料収集事業

○各分野の標本資料や視聴覚資料、自然に関する文献等の収集や保管を行った。

(1) 標本資料など

剥製標本15点と昆虫標本1点を収集した。平成20年以降、魚類・両生類・爬虫類の剥製標本の収集がなかったが、平成27年度は爬虫類3種（ヤマカガシ、シロマダラ、ジムグリ）、両生類1種（クロサンショウウオ）の剥製標本を収集した。

標本資料数（件）

取得		分類	哺乳類	鳥類	魚・両生 ・爬虫類	昆虫類	無脊椎 動物	植物 菌類	岩石・鉱物 ・古生物	天文	その他
収集	27年度		0	11	4	0	0	0	0	0	0
	累計		63	326	93	2,442	47	1,623	42	0	2
購入	27年度		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累計		13	31	14	11	0	614	350	9	0
寄贈・寄託	27年度		0	0	0	1	0	0	0	0	0
	累計		26	160	1	2,302	22	14,117	33	0	33
27年度計			0	11	4	1	0	0	0	0	0
累計			102	517	108	4,755	69	16,354	425	9	35

(2) 視聴覚資料

視聴覚資料数（件）

取得		脊椎動物		昆虫		無脊椎動物		植物		地形・地質		天文		その他	
		写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像
収集	27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累計	1,837	13	1,702	4	25	0	3,537	0	1,725	4	388	2	514	42
購入	27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累計	0	67	0	29	0	6	0	18	1	34	12	15	8	31
寄贈	27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累計	118	24	547	4	0	1	13	6	47	25	2	86	1	113
27年度計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
累計		1,955	104	2,249	37	25	7	3,550	24	1,773	63	402	103	523	186

(3) 文献資料

文献資料数

取得		種類	単行本（冊）	雑誌（冊）	報告書（冊）	その他（冊）
購入	27年度		0	5	0	0
	累計		1,312	28	0	0
交換・配付 （その他）	27年度		0	65	44	108
	累計		0	202	3,901	6,929
寄贈	27年度		0	1	0	0
	累計		505	1	405	778
27年度計			0	71	44	108
累計			1,817	231	4,306	7,707

(4) 天文写真資料

好天時や天文現象にあわせて、観察棟天体観測室や野外にて、デジタルカメラによる撮影を行った。撮影した映像はホームページや提供資料に活用し、NHKなどメディア等にも話題提供した。

5 調査研究事業

○福井県内の自然環境を把握し、自然保護の基礎資料とするために、各種調査研究を実施した。

(1) ガンカモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）

趣 旨： 鳥類保護行政の基礎資料とすることを目的として、福井県内に渡来するガンカモ科鳥類の生息状況を把握する。

概 要： この調査は、国（昭和44年度から林野庁、昭和48年度から環境庁、平成12年度から環境省）の依頼により、毎年1月15日前後に、全国一斉に行われているものである。福井県においては昭和52年度以降、県が日本野鳥の会福井県に委託して調査を実施している。調査は、坂井平野で平成28年1月9日、その他の調査地については平成28年1月11日に実施した。福井県におけるガン・カモ・ハクチョウ類の主要な渡来地となっている17か所の湖沼、河川、内湾、平野部において調査を行った。調査地の全域をカバーするように観察地点もしくはルートを設定し、調査地域内で観察されたガン・カモ・ハクチョウ類の種とその個体数を記録した。各調査地には3～14名の調査員を配置し、双眼鏡および望遠鏡により種を判定し、計数器により個体数を記録した。

結 果： 計17か所の調査地において、計18種26,675羽のガン・カモ・ハクチョウ類が記録された。昨年度と比較して種数は3種減少し、個体数は4,349羽減少した。今回の調査で、ガン類が1種372羽、ハクチョウ類が1種8羽、カモ類が16種26,295羽記録された。昨年度と比較して個体数に大きな増減があった種は、マガモ(5,456羽減)、カルガモ(1,141羽減)、ホシハジロ(1,132羽増)であった。優占度の高かった種は、マガモ(52.5%)、ホシハジロ(11.1%)、コガモ(9.9%)、キンクロハジロ(7.4%)などであった。逆に個体数の少なかった種は、コハクチョウ(8羽)、トモエガモ(12羽)などであった。

成 果： 調査結果は日本全国の結果と統合して集計するため、環境省生物多様性センターに報告した。また、調査結果を下記の報告書にとりまとめ、関係機関等に配布した。
日本野鳥の会福井県(編). 2016. 平成27年度ガンカモ科鳥類生息調査報告書. 福井県自然保護センター, 大野.

調査者： 日本野鳥の会福井県(委託)

(2) カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）

趣 旨： 中部、近畿圏におけるカワウ広域保護管理指針策定の基礎資料とするため、福井県内におけるカワウの生息状況を把握する。

概 要： 近年、全国的に個体数が増加し、内水面漁業との間で軋轢が生じているカワウは、行動域が広く県境を越えて移動するため、その被害防止と保護の両立には広域的な保護管理が必要である。そこで、環境省主導のもと、中部近畿カワウ広域協議会が設立され、広域保護管理指針の策定を目指している。この協議会では、カワウの保護管理の基礎資料とするため、各府県が連携してカワウの生息状況を把握することとしており、本県においてもカワウの営巣地・ねぐら調査を年3回実施してきた。今年度も7月、12月、3月において、これまでに判明しているカワウの営巣地・ねぐら10地点で、日没前後の入巣・就峙個体数の計数を行った。また、12月には新規営巣地・ねぐらを発見することを目的として、主要な水系沿いでルートセンサスを実施した。さらに、西日本では、カワウの新たな営巣地やねぐらはサギ類の営巣地への侵入によって形成されることが多いため、主要なサギ類コロニー10地点についても、7月に営巣種と個体数を調査した。

結 果： カワウの営巣確認数は、3月に2ヶ所で27個体の営巣が確認された。カワウの営巣地・ねぐら10地点における12月および3月の入巣・就峙個体数の合計は、それぞれ503羽および425羽であった。平成27年度に若狭町鳥浜で新規のねぐらが確認された。

成 果： 広域的なカワウの生息状況把握に利用するため、調査結果を中部近畿カワウ広域協議会に報告した。

調査者： 日本野鳥の会福井県（委託）

（3）自然観察の森周辺環境調査

趣 旨： 自然保護センター周辺の自然を調査し、展示や来館者を対象とした自然教育の資料とする。
概 要： 動植物の写真撮影し、ホームページでの公開、ウォーキングセンターでの展示などに活用した。

馬取池においてモリアオガエルの産卵数調査を行い、約120個の卵塊を確認した。（26年度112個）

冬期間、野鳥のエサ台周辺において、センサーカメラを用いた野生動物の夜間行動調査を実施し、テン2回、キツネ4回、タヌキ3回を確認した

調査者： 自然保護センター職員など

担当者： 宮下欣也、加藤幸洋、國永知裕

（4）ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）

趣 旨： クマ大量出没の予測を含むツキノワグマ保護管理の基礎資料とするため、ブナ科樹木の豊凶を把握する。

概 要： クマ類の人里付近への出没件数には年次変動があり、ときに大量出没に至るが、その発生にはクマの秋期における主要な餌であるブナ科樹木の堅果類の豊凶が関与していると考えられている。そこで、クマ大量出没の発生を早期に予測することを目的として、8月中旬から9月上旬にかけて、県全域を対象としてブナ科樹木の堅果類の樹上における着果状況を目視で調査し、その豊凶を把握した。

結 果： 平成27年度における各樹種の県全体の作柄は、ブナ、ミズナラ、コナラともに並作であった。これまでの研究の結果、福井県内ではブナとミズナラの作柄が揃って著しく不良となった平成18年と22年にクマの大量出没が確認されたことから、山地における餌資源の不足が秋期のクマの大量出没の引き金になったことが示唆されている。平成27年度のブナとミズナラを合わせた結実状況は、これらの年に比べ良好であり、山地におけるクマの餌資源は十分であると推察された。一方でミズナラ、ブナ共に作柄不良の調査地点が複数認められたことから、局所的に出没が増加する可能性があるためクマの利用痕跡や出没情報に十分注意を払うとともに誘因の除去に努める必要がある。

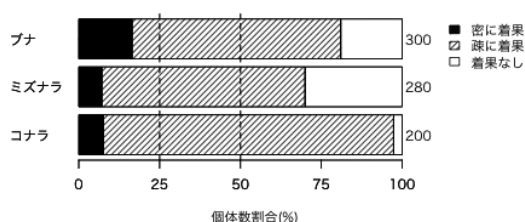


図 樹種ごとの着果区分別個体数割合。

グラフ右の数字は調査個体数を示す。

成 果： 県は本調査結果にもとづき、平成27年9月15日に開催した「平成27年度ツキノワグマ出没対策連絡会」において、出没予測を発表した。平成27年度の福井県における秋期のツキノワグマ出没件数は11件であり、大量出没には至らなかったためこの予測は的中したと言える。また、奥越地域では局所的にブナ、ミズナラの作柄不良の調査地点が多かったため、大野市からの要請を受け、10月1日には同市のツキノワグマ出没対策連絡会議に出席し、大野市内の出没予測の発表と大量出没時の対応確認を行った。

担当者： 國永知裕

(5) ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業

趣 旨： 国内希少野生動植物種に指定されているヤシャゲンゴロウの生息域外保全を行うために、人工飼育の方法を確立する。

概 要： 飼育室において成虫のペアリング、産卵、孵化、蛹化、羽化の一連の飼育を行い、飼育方法を研究する。

結 果： 前年度、宇津尾飼育所から譲り受け自然保護センターで羽化し、越冬した成虫（メス6個体、オス1個体）に宇津尾飼育所から譲り受けたオス1個体の合計8個体を飼育した。これら飼育第1世代間で交尾行動が確認され、6月以降断続的に産卵が認められた。6月18日から7月7日にかけて合計85匹の幼虫が孵化し、そのうち60個体が蛹化、52個体が羽化した。飼育第2世代の今年度の累積生存率は幼虫期（孵化から蛹化まで）で70.6%、成虫期（孵化から）で61.2%であった。

昨年度は幼虫の餌として幼虫期を通してミジンコを与えたが、今年度はこれに加え、2齢幼虫以降ではカ類の幼虫（ボウフラ）を、3齢幼虫以降ではモリアオガエルの幼生（オタマジャクシ）を新たに主な餌として与えた。また蛹化の際には蛹化用土にあぜ波シートを突き刺すことで、幼虫が蛹化の際に好む小凹地を複数創出し、個体間での蛹化場所の重複回避を図った。

担当者： 加藤幸洋、國永知裕

(6) ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発 (国立環境研究所：地環研等共同研究Ⅱ型共同研究)

趣 旨： ブナ林域における全国展開可能かつ効率的な総合植生モニタリング手法を開発する。

概 要： ブナ林は、わが国の冷温帯を代表する森林であり、北海道南部から九州まで広範囲に分布しているが、近年各地で衰退が報告されている。ブナ林衰退の原因としては、オゾンなどのガス状大気汚染物質や酸性霧の関与、ブナハバチなどの虫害、台風等の風害、温暖化や少雪化、林床植生の退行なども含めた土壌乾燥化、さらにはシカの食害等が指摘されている。しかし、健全（衰退）度評価、樹木活性、植生状況、重要な環境要因などに関する調査項目や方法は、衰退地域によって様々であり、全国的な衰退状況把握および原因検討はほとんど行われていない。そこで、ブナ林域における全国展開可能かつ効率的な総合植生モニタリング手法を開発するとともに、ブナ林を有する多くの都道府県が参画する総合植生モニタリングのネットワークを構築する。

成 果： 平家平でのオゾンおよび二酸化窒素濃度測定調査を3ヶ月間実施した。また、平成28年3月に新潟で開かれた検討会に出席し、平成25年の調査結果とあわせて報告した。

担当者： 國永知裕

(7) Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行

趣 旨： センターの調査事業および福井県内の自然に関する調査研究報告を一般に募集し、編集・発行する。

概 要： Ciconia Vol.19掲載論文の一覧

- ・福井県自然保護センター．越前市西部地区におけるサギ類の採餌場所の季節変化一渡り鳥保全調査2013, 2014年度一．
- ・兼子伸吾・北川博正・猪瀬礼璃菜・多田雅充．大野市のフクジュソウ *Adonis ramosa*（キンポウゲ科）について．
- ・大宮正太郎．2015年の大野市南六呂師における昆虫類の記録．
- ・水谷瑞希．2013年の福井県におけるブナ科樹木3種の着果状況．
- ・坪内和夫・國永知裕・多田雅充．2014年の福井県におけるブナ科樹木3種の着果状況．

担当者： 國永知裕

6 その他

(1) 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

福井県自然保護関係機関連絡会議は、福井県の自然環境や自然保護に関する調査研究を行っている機関相互の情報交換、共有化を促進し、ネットワークの強化を図るとともに、科学的情報に基づく自然保護の推進に役立てることを目的として設置した組織である。自然保護センターに事務局を置いており、下記の機関が加盟している。

越前町立福井総合植物園、福井市自然史博物館、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県自然保護センター、福井県里山里海湖研究所

平成27年度には、下記の事業を実施した。

・福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

日時 平成28年3月19日(10:30～11:30)

会場 福井県立大学福井キャンパス演習室115

参加者 構成機関より10名出席

・平成27年度調査研究事例発表会の開催(里山里海湖フォーラム研究発表会を兼ねて開催)

日時：平成28年3月19日(13:00～16:00)

会場：福井県立大学福井キャンパス共通講義棟110

内容：研究発表「知られざる若狭湾の島々の地質」吉澤康暢(福井市自然史博物館)

「花粉分析が語る里山の風景の成立と変遷」北川淳子(福井県里山里海湖研究所)

「ヤシャゲンゴロウの保護増殖事業における自然保護センターの取り組み」

國永知裕、加藤幸洋、伴 紀好(福井県自然保護センター)、坪内和夫(福井県自然観察指導員の会)

「資源循環利用を目指した早生樹植栽の実証について」黒田美穂(福井県総合グリーンセンター)

「アラレガコの保全と食文化」田原大輔(福井県立大学)

「北潟湖の植生変遷と自然再生」石井潤(福井県里山里海湖研究所)

「北潟湖の漁撈文化にみる資源利用と管理」中村亮(福井県里山里海湖研究所)

「越前町糸生地区とプラントピアの連携―越知山登山道の事例―」松本淳(越前町立福井総合植物園)

「海浜自然センターにおける里海湖体験の現状」宮田克士(福井県海浜自然センター)

参加：115名

・ナチュラリスト77号において「ふくいSATOYAMA学級2016行事案内」を発行

(2) 大型野生動物の放獣に関わる指導協力

市町等の要請により、大型野生動物の麻酔薬による保定および放獣の指導を行っている。平成27年度は、ツキノワグマへの対応事例はなかったが、住宅集密地に出没したニホンカモシカやニホンザル捕獲に際し市町から要請を受け対応した。またニホンカモシカ傷病個体の救護の際に保定のために麻酔処置を実施した。

取り扱った大型野生動物個体の一覧

月日	市町	種名	成・幼の別	性別	麻酔処置	放獣指導
6月15日	大野市	ニホンカモシカ	成獣	不明	実施	—
9月1日	美浜町	ニホンザル	成獣	不明	未実施	—
9月2日	美浜町	ニホンザル	成獣	不明	未実施	—
2月24日	大野市	ニホンカモシカ	成獣	不明	実施	—
3月3日	勝山市	ニホンカモシカ	成獣	メス	実施	—

(3) 職員の派遣

他機関等からの要請に応じ、センターの担当職員を講師として派遣した。

講師	活動名	場所	実施年月日	主催者
國永知裕	荒川土手オオキンケイギイク駆除作業	福井市 荒川土手沿い	平成27年6月20日	福井北 ロータリークラブ
宮下欣也	勝山市豊かな自然体験活動	勝山市 東山いこいの森	平成27年7月27日 ～29日	勝山市教育委員会
松村俊幸	自然再生士認定講習会	国際交流会館	平成27年8月30日	日本緑化センター
國永知裕	上庄小学校ビオトープ整備作業支援	大野市上庄小学校	平成27年9月6日	大野市上庄小学校
松村俊幸	自然環境学習	若狭町鳥羽	平成27年9月30日	若狭町立鳥羽小学校
宮下欣也	紅葉ハイキング	池ヶ原湿原コース	平成27年10月28日	福井県奥越高原青少年 自然の家
松村俊幸	福井県自然観察指導員の会研修	自然保護センター	平成27年11月14日	福井県自然観察指導員の 会
松村俊幸	かつやま環境フォーラム2015	福祉健康センター	平成27年11月14日	勝山市環境政策課

(4) 学会・研究会・シンポジウムでの発表

自然保護センターで行った調査研究の成果を発表した。

発表者	学会等の名称	発表テーマ
國永知裕・水谷 瑞希（信州大学）	国立環境研究所, 「山地森林域の生物・環境モニタリング」第10回ワークショップ, 新潟県保健衛生研究所（新潟）, 3月14日.	福井県大野市平家平のブナ優占林におけるオゾン濃度の推移

(5) 委員の受託など

他機関等から委嘱された委員等への就任を受託した。

氏名	委員等の名称	事務局
松村俊幸	奥越地域自然環境検討会	国土交通省福井河川国道事務所
	永平寺大野道路自然環境検討会	国土交通省福井河川国道事務所
	冠山峠道路自然環境検討会	国土交通省福井河川国道事務所
	吉野瀬川ダム自然環境検討会	吉野瀬川ダム建設事務所
	河内川ダム自然環境検討会	河内川ダム建設事務所
	北潟湖の自然再生に関する協議会	あわら市生活環境課
	鳥獣保護管理プランナー	環境省自然環境局
	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	農林水産省生産局
國永知裕	国立環境研究所客員研究員	国立研究開発法人国立環境研究所
	ブナの森検討委員会	大野市産経建設部農業林業振興課

(6) 展示協力など

- 福井県海浜自然センター主催「ナイトアクアリウム特別展」への剥製標本出前展示
7月18日から20日に開催された海浜自然センター主催「ナイトアクアリウム特別展」に合わせ、7月19日から8月6日までの間、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等鳥獣の剥製標本17種20体を展

示した。7月19日、20日には職員を派遣し展示解説を行った。

- ・ 福井県里山里海湖研究所特別企画「里山コウノトリデー」への剥製標本の貸し出し
9月19日から23日に里山里海湖研究所で開催された「里山コウノトリデー」にコウノトリの剥製標本1体を貸し出し、展示を行った。
- ・ 「六呂師高原アルプス音楽祭」協賛 特別展示とイベント開催
9月20日から23日に開催された六呂師高原アルプス音楽祭に協賛し、ウォーキングセンターにおいてツキノワグマ、クマタカ等鳥獣の剥製標本6種6体を展示するとともに、飼育していたアズマヒキガエルの生体展示を行った。また、六呂師高原の自然観察ガイド、押し花のしおり作り、工作体験教室を開催した。

(7) 事業協力を行った関係団体

以下の団体・機関等と連携・協力して各事業を実施した。

① 指導普及事業

ア 自然観察会など

福井県自然観察指導員の会、日本野鳥の会福井県、福井ライフ・アカデミー、福井大学理数系教員養成拠点構築事業

イ 自然愛護

福井県獣医師会

ウ 里地里山の保全、普及

安曇区自治会、えろもんのふけを守る会、エコネイチャー・さかい、越前松島水族館、坂井市環境推進課、小原ECOプロジェクト、環境省白山保護官事務所、勝山市教育委員会史蹟整備課、福井県奥越農林総合事務所、福井大学教育地域科学部地域政策講座、オキナグサを蘇らせる会、平泉寺町まちづくり推進協議会、マイランEPD合同会社、ケイテーテクシーノ株式会社、勝山ロータリークラブ、ノーム自然環境教育事務所、福井県自然観察指導員の会、山田兄弟製紙株式会社、勝山市立平泉寺小学校、勝山市環境政策課、奥越高原青少年自然の家、福井県奥越高原牧場

エ 天体観望会など

オヤット天文クラブ、ハツ杉天体観測所、奥越星を見る会、奥越高原青少年自然の家、東山いこいの森キャンプ場

オ 職員派遣

小原ECOプロジェクト、福井北ロータリークラブ、勝山市教育委員会、日本緑化センター、大野市上庄小学校、陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会、若狭町立鳥羽小学校、福井県奥越高原青少年自然の家、勝山市立平泉寺小学校、福井県自然観察指導員の会、勝山市環境政策課

② 研修養成事業

日本自然保護協会、福井県自然観察指導員の会、福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会、大野市尚徳中学校

③ 調査研究事業

日本野鳥の会福井県、石川県白山自然保護センター、富山県農林水産総合技術センター、信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設、国立環境研究所

④ 福井県自然保護関係機関連絡会議事業

福井市自然史博物館、越前町立福井総合植物園、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県里山里海湖研究所

1 1年のあゆみ

- 4月1日 メールマガジン「みみずく通信PC版119号, 携帯版55号」配信
- 4月4日 特別天体観望会「皆既月食をみよう」(自然保護センター)
- 4月10日 ツキノワグマ出没対策連絡会(県庁 正庁)
- 4月15日 ミチノクフクジュソウ開花観察会 講師派遣(勝山市小原)
- 4月18日 里山観察ウォーク「生きもの春ものがたり -敦賀西浦周辺の自然-」(敦賀市)
共催: 福井県自然観察指導員の会
- 4月25日 メールマガジン「みみずく通信PC版120号, 携帯版56号」配信
- 5月2日 ~4日 特別天体観望会「ゴールデンウィークの夜 -火星・木星をみよう-」
- 5月14日 湧水の里復活プロジェクト事業ワーキング(鯖江市)
- 5月17日 (公) 県獣医師会総会
- 5月23日 里山観察ウォーク「生きもの初夏ものがたり -塩の道とホノケ山-」(南越前町)
共催: 福井県自然観察指導員の会
- 5月27日 中池見湿地保全活用計画策定委員会
- 5月30日 白山エコパークリレーシンポジウム
- 5月31日 池ヶ原湿原ミニウォーク「湿原の息吹 レンゲツツジとモリアオガエル」(勝山市)
共催: 福井県自然観察指導員の会
- 6月1日 鳥獣会議(職員会館)
- 6月2日 メールマガジン「みみずく通信PC版121号, 携帯版57号」配信
- 6月4日 池ヶ原湿原連絡協議会(奥越高原牧場)
~5日 九頭竜ダムでの外来魚共同駆除職員参加(大野市)
- 6月6日 ~7日 NACS-J自然観察指導員養成講座(鯖江市)
- 6月10日 ~11日 全国博物館館長会議、全国科学博物館協議会総会
- 6月19日 ヤシャゲンゴロウ保護増殖事業現地視察(夜叉ヶ池)
- 6月20日 オオキンケイギク駆除作業 講師派遣(福井市荒川) 主催: 福井北ロータリークラブ
- 6月27日 第1回ヨシ刈り活動(池ヶ原湿原連絡協議会)
~28日 白山エコパークシンポジウム(富山・岐阜)
- 7月1日 メールマガジン「みみずく通信PC版122号, 携帯版58, 59号」配信
- 7月5日 池ヶ原湿原ミニウォーク「湿原の賑わい ミズチドリとトンボたち」(勝山市)
共催: 福井県自然観察指導員の会
- 7月7日 特別天体観望会「七夕の夜 -願いをこめて-」(自然保護センター)
- 7月8日 中池見湿原保全計画策定委員会(敦賀市)
- 7月9日 ミチノクフクジュソウ保全活動 講師派遣(勝山市小原)
- 7月10日 メールマガジン「みみずく通信PC版123号, 携帯版60号」配信
- 7月11日 里山観察ウォーク「六呂師高原ものがたり -六呂師高原ウォーク-」(大野市)
共催: 福井県自然観察指導員の会
自然環境学習 講師派遣(美浜町)
- 7月18日 夏休み標本教室「作ってみよう植物標本」(自然保護センター)
共催: 福井県自然観察指導員の会
メールマガジン「みみずく通信PC版124号, 携帯版61号」配信
- 7月19日 特別天体観望会「じっくり見てみよう(1) 土星のふしぎ」(自然保護センター)
- 7月18日 ~20日 海浜自然センターナイトアクアリウム特別展(若狭町)
- 7月27日 ~29日 勝山市豊かな自然体験活動 講師派遣(東山いこいの森)
- 7月31日 天文教室「スターチャレンジII -天体望遠鏡を作ってみよう!-」(自然保護センター)
- 8月1日 夏休み標本教室「作ってみよう昆虫標本」(自然保護センター)

- 共催：福井県自然観察指導員の会
- 8月6日 メールマガジン「みみずく通信PC版125号，携帯版62号」配信
- 8月7日 陣ヶ岡丘陵地生物多様性協議会 雄島小学校への説明会（坂井市三国町）
天文教室「スターチャレンジⅠ－星座をさがそう（夏）－」（自然保護センター）
- 8月8日 メールマガジン「みみずく通信PC版126号，携帯版63号」配信
- 8月9日 池ヶ原湿原ミニウォーク「湿原の彩り 黄色と紫色」（勝山市）
共催：福井県自然観察指導員の会
- 8月10日 ～9月3日 堅果類豊凶調査（県内）
- 8月12日 天文教室「スターチャレンジⅢ パルセウス流星群を見よう」（自然保護センター）中止
メールマガジン「みみずく通信PC版127号，携帯版64号」配信
- 8月14日 特別天体観望会「お盆には星を・・・」（自然保護センター）
- 8月17日 メールマガジン「みみずく通信PC版128号・129号，携帯版65号・66号」配信
- 8月29日 メールマガジン「みみずく通信PC版」配信
- 8月30日 自然再生士認定講習会 講師派遣
- 8月31日 センター運営会議（自然保護センター）
- 9月3日 メールマガジン「みみずく通信PC版130号，携帯版67号」配信
- 9月5日 コウノトリフォーラム（国際交流会館）
- 9月6日 上庄小学校ビオトープ整備作業支援
- 9月9日 ヤシヤゲンゴロウ保全・増殖実務担当者会議（坂井市）
- 9月15日 ツキノワグマ出没対策連絡会（県庁 正庁）
メールマガジン「みみずく通信PC版131号，携帯版68号」配信
- 9月17日 中池見湿地保全活用計画策定ワーキング
- 9月18日 愛鳥ポスター審査会
- 9月19日 ～21日 特別天体観望会「シルバーウィークの夜 一月・天王星・海王星をみようー」（自然保護センター）
- 9月20日 ～23日 「アルプス音楽祭」協賛 特別展示（ウオーキングセンター）
- 9月26日 里山観察ウォーク「生きもの秋のものがたり－馬借街道の自然－」（南越前町）
共催：福井県自然観察指導員の会
- 9月27日 特別天体観望会「中秋の名月」（自然保護センター）
- 9月28日 自然環境学習 講師派遣（雄島小学校）
- 9月30日 自然環境学習 講師派遣（鳥羽小学校）
- 10月1日 大野市ツキノワグマ出没対策連絡会議（大野市）
- 10月3日 コウノトリ放鳥（越前市）
天文教室「スターチャレンジⅠ－星座をさがそう（秋）－」（自然保護センター）
- 10月10日 メールマガジン「みみずく通信PC版132号，携帯版69号」配信
- 10月11日 天文教室「スターチャレンジⅣ－親子でじっくり天体観望ー」（自然保護センター）
- 10月12日 メールマガジン「みみずく通信PC版133号，携帯版70号」配信
- 10月15日 ミチノクフクジュソウ保全活動 講師派遣（勝山市小原）
- 10月16日 メールマガジン「みみずく通信PC版134号，携帯版71号」配信
- 10月18日 外来魚防除作業（旧清水町）
- 10月19日 北陸地区プラネタリウムWG第1回研修会（石川県）
- 10月21日 メールマガジン「みみずく通信PC版135号，携帯版72号」配信
- 10月23日 メールマガジン「みみずく通信PC版136号，携帯版73号」配信
- 10月27日 雄島小学校陣ヶ岡丘陵地自然観察会（坂井市）
- 10月28日 紅葉ハイキング講師派遣（奥越青少年自然の家主催）
- 10月30日 メールマガジン「みみずく通信PC版137号，携帯版74号」配信
- 10月31日 第2回池ヶ原ヨシ刈り作業（池ヶ原湿原連絡協議会）
- 11月2日 天文教室「スターチャレンジⅤ－天体撮影に挑戦！（直焦点撮影）－」（自然保護センター）
平泉寺小学校ヨシ刈り活動（池ヶ原湿原）
- 11月5日 ～6日 第18回自然系調査研究機関連絡会議（千葉県）

- 11月6日 六呂師高原活性化推進会議
- 11月7日 里山観察ウォーク「生きもの晩秋ものがたり -松岡古墳群の自然-」(永平寺町)
共催：福井県自然観察指導員の会
- 11月8日 北潟フォーラム(あわら市)
- 11月10日 メールマガジン「みみずく通信PC版138号, 携帯版75号」配信
- 11月11日 メールマガジン「みみずく通信PC版139号, 携帯版76号」配信
- 11月13日 天文教室「スターチャレンジVI -天体撮影に挑戦!(星野撮影)-」(自然保護センター)
- 11月14日 福井県自然観察指導員の会研修、かつやま環境フォーラム(勝山市)
- 11月15日 狩猟取締パトロール
- 11月16日 北陸地区プラネタリウムWG第2回研修会(石川県)
- 11月18日 中池見湿原委員会(敦賀市)
- 11月20日 第1回ヤシャゲンゴロウ保護増殖事業検討会(南越前町)
- 11月21日 愛鳥教室「生きもの冬鳥ものがたり -遠く海を渡ってきたカモたち-」(坂井市)
共催：福井県自然観察指導員の会
- 11月22日 特別天体観望会「じっくり見てみよう(2)月の表面はおもしろい!」(自然保護センター)
- 11月24日 ~30日 館内燻蒸作業に伴う臨時休館(自然保護センター)
- 12月3日 動物慰霊祭(自然保護センター)
- 12月4日 消防訓練(自然保護センター)
- 12月12日 陣ヶ岡保全作業(坂井市)
- 12月21日 コウノトリ追跡調査(愛知県)
- 1月4日 メールマガジン「みみずく通信PC版140号, 携帯版77号」配信
- 1月5日 冬の野鳥レストラン開店
- 1月17日 メールマガジン「みみずく通信PC版141号, 携帯版78号」配信
- 1月21日 メールマガジン「みみずく通信PC版142号, 携帯版79号」配信
- 1月23日 接遇マナー基本研修(歴史博物館)
- 1月24日 メールマガジン「みみずく通信PC版143号, 携帯版80号」配信
- 1月28日 福井県第二種特定鳥獣管理計画検討委員会
- 1月29日 メールマガジン「みみずく通信PC版144号・145号, 携帯版81号・82号」配信
- 2月4日 メールマガジン「みみずく通信PC版146号, 携帯版83号」配信
- 2月5日 メールマガジン「みみずく通信PC版147号・148号, 携帯版84号・85号」配信
- 2月7日 メールマガジン「みみずく通信PC版149号, 携帯版86号」配信
- 2月11日 メールマガジン「みみずく通信PC版150号, 携帯版87号」配信
- 2月17日 池ヶ原湿原連絡協議会(勝山市教育会館)
- 2月19日 メールマガジン「みみずく通信PC版151号, 携帯版88号」配信
- 2月23日 白山国立公園生態系維持回復事業検討会
- 2月26日 メールマガジン「みみずく通信PC版152号, 携帯版89号」配信
- 2月27日 里山観察ウォーク「生きもの冬ものがたり -スノーシューで行く雪の里山-」
(自然保護センター) 共催：福井県自然観察指導員の会
- 2月28日 メールマガジン「みみずく通信PC版153号, 携帯版90号」配信
- 2月29日 ヤシャゲンゴロウ保全連絡協議会(敦賀市)
- 3月1日 メールマガジン「みみずく通信PC版154号・155号, 携帯版91号・92号」配信
- 3月2日 メールマガジン「みみずく通信PC版156号, 携帯版93号」配信
- 3月3日 メールマガジン「みみずく通信PC版157号, 携帯版94号」配信
- 3月4日 メールマガジン「みみずく通信PC版158号, 携帯版95号」配信
- 3月5日 メールマガジン「みみずく通信PC版159号, 携帯版96号」配信
- 3月8日 メールマガジン「みみずく通信PC版160号, 携帯版97号」配信
- 3月9日 特別天体観望会「部分日食をみよう」(自然保護センター)
- 3月14日 ~15日 国立環境研究所Ⅱ型共同研究打合せおよび検討会等(新潟)
- 3月19日 福井県自然保護関係機関連絡会議、里山里海湖フォーラム

2 施設利用実績

① 利用実績表

ア 本館・野外（館内・自然観察の森ガイド）（ ）内は内数（人）

区 分		団 体	一 般	合計人数
本 館		135団体 6,087	12,720	18,807
内 訳	本館見学	(101団体 4,639)	12,296	16,935
	館内・自然観察の森ガイド	(34団体 1,448)	424	1,872

イ 観察棟（天体観望会およびプラネタリウム等）（ ）内は内数（人）

区 分		団 体	一 般	合計人数
観 察 棟		151団体 5,814	5,679	11,493
内 訳	天体観望会	(70団体 2,705)	(1,028)	(3,733)
	プラネタリウム	(81団体 3,109)	(2,356)	(5,465)
	特別観望会・天文教室		(1,085)	(1,085)
	昼の天体観望会		(1,210)	(1,210)

② 団体利用内訳

ア 本館

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	4	113	0	0	0	0	0	0	0	4
5	5	309	0	0	4	0	1	0	0	0
6	8	391	0	0	8	0	0	0	0	0
7	24	967	6	5	5	1	1	0	0	6
8	24	1,025	6	3	1	1	0	0	1	12
9	10	571	1	3	1	1	0	0	1	3
10	12	759	1	2	3	1	2	0	1	2
11	3	86	0	0	1	0	0	0	0	2
12	1	38	0	0	0	0	0	0	0	1
1	6	227	1	0	0	1	0	0	0	4
2	2	63	0	0	0	0	0	0	0	2
3	2	90	1	0	0	0	0	0	0	1
計	101	4,639	16	13	23	5	4	0	3	37

イ 野外（観察の森ガイド等）

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	1	40	0	0	0	0	0	0	0	1
5	7	434	0	2	2	1	1	0	0	2
6	5	182	0	2	3	0	0	0	0	0
7	6	185	0	1	2	0	0	0	0	3
8	7	229	0	2	0	0	0	0	2	3
9	2	148	0	0	0	2	0	2	0	0
10	4	167	0	4	1	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	2	63	0	1	1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	34	1,448	0	12	9	3	1	0	2	9

ウ 天体観望会（夜・昼）

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	2	83	1	0	0	0	0	0	0	1
5	9	455	0	1	7	1	0	0	0	0
6	8	232	0	1	6	0	0	0	0	1
7	14	474	0	1	2	1	1	0	0	9
8	13	497	2	1	1	1	0	0	1	7
9	10	304	0	4	2	1	0	0	0	3
10	7	461	2	1	1	2	0	0	1	0
11	2	66	1	0	1	0	0	0	0	0
12	1	39	0	0	0	0	0	0	0	1
1	2	32	0	0	0	0	0	0	0	2
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	2	62	0	0	0	0	0	0	0	2
計	70	2,705	6	9	20	6	1	0	2	26

エ プラネタリウム

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	2	83	1	0	0	0	0	0	0	1
5	9	503	0	1	6	1	1	0	0	0
6	8	275	0	1	7	0	0	0	0	0
7	14	482	0	3	2	1	0	0	0	8
8	19	620	3	2	0	1		0	1	12
9	12	387	1	5	2	1	0	0	0	3
10	9	410	2	2	2	2	0	0	1	0
11	2	66	1	0	1	0	0	0	0	0
12	1	39	0	0	0	0	0	0	0	1
1	4	182	1	0	1	1	0	0	0	1
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	1	62	0	0	0	0	0	0	0	1
計	81	3,109	9	14	20	7	0	0	2	29

3 運営会議

- ・福井県自然保護センターを効率的に運営するために、運営会議を設置した。

福井県自然保護センター運営会議委員 任期 平成27年4月1日～平成29年3月31日

	氏名	勤務先・所属団体	専門分野等
会長	保科 英人	福井大学教育地域科学部 准教授	昆虫
副会長	南部 友子	元大野青年会議所 ふるさと環境委員会委員長	環境
委員	湯川 直	大野市 産経建設部 観光振興課長	行政
委員	酒井 敬治	日本野鳥の会福井県 代表	鳥類
委員	山本 俊夫	奥越星を見る会 会長	天文
委員	組頭五十夫	福井県自然観察指導員の会 会長	鳥類
委員	坂本 道子	GNOM自然環境教育事務所 副代表	自然教育
委員	山岸登美子	ふくい緑ネイチャーゲームの会	ネイチャーゲーム
委員	馬道 保	大野市阪谷小学校 校長	学校教育
委員	竹内 和徳	勝山市立成器南小学校 校長	学校教育

※所属等は平成27年4月1日現在。

4 気象データ

平成27年1月～12月

観測地：福井県自然保護センター芝生広場

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
日平均気温	上旬	-0.6	-1.2	1.9	8.4	15.9	17.0	19.6	26.2	19.4	14.5	12.5	5.5	
	中旬	-0.1	-0.2	4.3	10.8	16.1	19.4	25.0	22.6	17.0	13.5	11.7	5.4	
	下旬	1.2	3.5	5.4	15.0	18.3	19.0	24.4	21.6	17.4	11.8	7.2	3.2	
	月平均	0.2	0.7	3.9	11.4	16.8	18.5	23.0	23.5	17.9	13.3	10.5	4.7	
	平年値	0.5	1.0	4.1	9.9	14.8	19.2	22.8	24.4	20.4	14.6	9.2	3.5	
日最高気温 (平均)	上旬	1.5	1.6	5.1	11.8	21.7	21.6	22.6	31.6	22.1	19.5	16.4	9.1	
	中旬	2.6	2.4	8.1	15.3	21.9	23.9	29.1	26.5	21.0	18.6	14.7	8.9	
	下旬	4.2	7.5	10.6	21.2	24.2	22.9	28.0	25.4	21.6	15.9	10.2	5.9	
	月平均	2.8	3.8	7.9	16.1	22.6	22.8	26.6	27.8	21.6	18.0	13.8	8.0	
	平年値	4.0	5.0	8.8	15.3	20.4	23.6	26.8	28.6	24.6	19.1	12.1	6.6	
日最低気温 (平均)	上旬	-2.4	-3.8	-1.4	5.0	10.6	12.7	17.3	22.0	17.2	10.2	9.0	1.9	
	中旬	-2.7	-2.5	1.0	6.0	10.9	16.0	21.8	20.0	14.1	9.8	8.9	2.0	
	下旬	-1.6	0.0	1.2	9.4	13.3	15.6	21.7	19.1	14.4	8.3	4.4	0.5	
	月平均	-2.2	-2.1	0.3	6.8	11.6	14.8	20.3	20.4	15.2	9.4	7.4	1.5	
	平年値	-2.4	-2.6	-0.2	4.9	10.0	15.3	19.5	20.5	16.3	10.4	4.9	0.5	
積雪 (最深積雪)	上旬	170	220	200									0	最深積雪 240cm 2月14日 初雪日 12月4日
	中旬	190	240	230									28	
	下旬	185	210	138									140	

(注) 平年値：平成9年～26年までの平均値

(注) 初雪日：自然保護センターでの初雪の日

(注) 8/8～8/12欠測

4 関係条例・規則

○福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例
平成二年三月二十七日
福井県条例第四号
改正 平成八年三月三十一日条例第一二号
平成十一年三月一六日条例第一四号
平成二六年三月二〇日条例第一号
福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例を公布する。

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例

(設置)
第一条 自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の向上に寄与するため、福井県自然保護センター（以下「センター」という。）を設置する。

(位置)
第二条 センターは、大野市に置く。

(業務)
第三条 センターは、次に掲げる業務を行う。
一 自然の観察、研究等のために必要な施設または設備の提供
二 自然の観察、研究等のために必要な助言または指導
三 自然に関する研修会、講習会等の開催
四 自然に関する資料の収集、保管および展示
五 自然に関する調査および研究
六 前各号に掲げるもののほか、センターの設置の目的にふさわしい業務

(職員)
第四条 センターに、所長その他必要な職員を置く。

(施設等の使用の承認)
第五条 センターの施設または設備を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)
第六条 センターの施設または設備を使用する者は、別表に掲げる使用料を納付しなければならない。
2 既に納付した使用料は、還付しない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(使用料の減免)
第七条 知事は、特に必要があると認めるときは、使用料の全部または一部を免除することができる。

(委任)
第八条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則
この条例は、平成二年四月一日から施行する。

附 則（平成八年条例第一二号）
この条例は、平成八年四月一日から施行する。

附 則（平成十一年条例第一四号）
この条例は、平成十一年四月一日から施行する。

附 則（平成二六年条例第一号）抄
(施行期日)
1 この条例は、平成二十六年四月一日から施行する。

別表（第六条関係）
(平八条例一・平一一条例一四・平二六条例一・一部改正)
一 施設

区 分	金 額		
	9時から 12時まで	12時から 17時まで	9時から 17時まで
レクチャーホール	2,780円	4,530円	7,300円
会 議 室	740円	1,340円	2,080円
工 作 室	1,440円	2,260円	3,700円

二 設備

区 分	金額1回（5時間以内）につき
ワイヤレスマイク	200円
カセットテープレコーダー	200円
ス ラ イ ド 映 写 機	530円
十 六 ミ リ 映 写 機	2,880円
ビデオテープレコーダー	1,340円

○福井県自然保護センターの管理運営に関する規則
平成2年3月27日
福井県規則第4号
福井県自然保護センターの管理運営に関する規則を公布する。

福井県自然保護センターの管理運営に関する規則

(趣旨)
第一条 この規則は、福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例（平成二年福井県条例第四号。以下「条例」という。）第八条の規定に基づき、福井県自然保護センター（以下「センター」という。）の管理および運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間および入館時間)
第二条 センターの本館の開館時間は、午前九時から午後五時までとする。ただし、入館時間は、午後四時三十分までとする。
2 センターの観察棟の開館時間は、午前九時から午後九時三十分までとする。ただし日曜日の開館時間は、午前九時から午後五時までとする。
3 福井県自然保護センター所長（以下「センター所長」という。）は、必要があると認めるときは、前二項の開館時間および入館時間を変更することができる。

(休館日)
第三条 センターの休館日は、次に掲げる日とする。ただし、第一号または第二号に掲げる日が七月二十一日から八月三十一日までの日である場合には、休館日としないものとする。
一 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）第三条に規定する休日（以下「休日」という。）に該当する場合を除く。）
二 休日の翌日（土曜日、日曜日または休日に該当する場合を除く。）
三 十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二号に該当する場合を除く。）
2 センター所長は、必要があると認めるときは、前項の休館日を変更することができる。
(平一三規則二九・平一五規則一四・一部改正)

(入館の拒否)
第四条 センター所長は、センターに入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、入館を拒否することができる。
一 他人に危害を加え、または迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
二 施設または展示品を損傷するおそれのあるとき。
三 前二号に掲げるもののほか、センターの管理上支障があると認められる行為をするおそれのあるとき。

(入館者の遵守事項)
第五条 センターに入館した者（以下「入館者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
一 展示品（特に指定した展示品を除く。）に触れないこと。
二 展示品の近くで、インキ、墨等を使用しないこと。
三 承認を受けずに展示品の構造、模写または撮影をしないこと。
四 所定の場所以外で喫煙または飲食をしないこと。

五 他人に危害を及ぼし、または迷惑となる行為をしないこと。

六 その他係員の指示に従うこと。
2 センター所長は、入館者が前項の規定に違反したときは、その者に対して退館を命じ、または必要な措置をとることができる。

(施設等の使用の承認)
第六条 条例第五条の規定により、センターの施設または設備の使用の承認を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用承認申請書(様式第一号)をセンター所長に提出しなければならない。

2 センター所長は、前項の申請に対し使用を承認したときは、福井県自然保護センター使用承認書(様式第二号)を交付する。

(使用者の遵守事項)
第七条 センターの施設または設備を使用する者(以下「使用者」という。)は、次に掲げる事項を守らなければならない。

一 承認を受けた使用内容を変更しないこと。
二 センターの施設または設備をき損し、または汚損しないこと。

三 使用の承認を受けた施設もしくは設備を転貸し、または当該承認に基づく権利を譲渡しないこと。
四 館内の秩序または風俗を乱す行為をしないこと。

五 承認を受けずに作品、物品等の販売、寄附金の募集、立看板の掲示その他これらに類する行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、センターの管理上支障がある行為をしないこと。

2 センター所長は、使用者が前項の規定に違反したときは、センターの使用の承認を取り消すことができる。
3 使用者は、センターの施設または設備の使用を終了したときは、原状に回復しなければならない。

(使用料の還付)
第八条 条例第六条第二項ただし書の規定により、次の各号のいずれかに該当する場合には、使用料を還付することができる。

一 災害その他不可抗力により、施設または設備の使用ができなくなったとき。
二 その他センター所長がやむを得ない事由があると認めるとき。

2 使用料の還付を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料還付申請書(様式第三号)に領収書または福井県自然保護センター使用承認書を添えてセンター所長に提出しなければならない。

(使用料の減免)
第九条 条例第七条の規定により、使用料を減免することができる場合およびその減免の額は、次に掲げるとおりとする。

一 県、県内の市町または県内の小学校、中学校、高等学校もしくは特別支援学校が主催する県民のための自然教育、自然保護等に関する事業に使用するとき 使用料に相当する額

二 その他センター所長が特に必要があると認めるとき センター所長が必要と認める額

2 前項の規定により使用料の減免を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料減免申請書(様式第四号)をセンター所長に提出しなければならない。

3 センター所長は、前項の申請に対し減免を承認したときは、福井県自然保護センター使用料減免承認書(様式第五号)を交付する。

(平一八規則九・平一九規則二三・一部改正)
(施設等の損傷または滅失の届出)

第十条 入館者および使用者は、センターの施設、設備等を損傷し、または滅失したときは、遅滞なくその旨をセンター所長に届け出て、その指示に従わなければならない。

(その他)
第十一条 この規則で定めるもののほか、センターの管理および運営に関し必要な事項は、知事が別に定める。

附 則
この規則は、平成二年四月一日から施行する。

附 則(平成三年規則第一九号)
(施行期日)
1 この規則は、公布の日から施行する。
(様式に関する経営措置)

2 この規則による改正前の様式に基づいて作成した用紙は、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

附 則(平成一三年規則第二九号)
この規則は、平成十三年四月一日から施行する。

附 則(平成一五年規則第一四号)
この規則は、平成十五年四月一日から施行する。

附 則(平成一八年規則第九号)抄
(施行期日)
1 この規則は、平成十八年三月三日から施行する。

附 則(平成一九年規則第二三号)抄
(施行期日)
1 この規則は、平成十九年四月一日から施行する。

様式第1号(第6条関係)(平3規則19・一部改正)

年 月 日			
福井県自然保護センター所長様 申請者 住所 氏名 法人にあっては、その主たる事務所の 所在地、名称および代表者の氏名			
福井県自然保護センター使用承認申請書			
福井県自然保護センターの施設(設備)を使用したいので、次のとおり申請します。			
事業名			
主催者名	所在地		電 話
	名 称		代表者
使用施設(設備)			
使用の概略	事業の概要		
	入場料徴収の有無	有	無(料金 円)
	推定入場人員数		
	設置する造作物		
使用期間	年 月 日 時 分から	年 月 日 時 分まで	

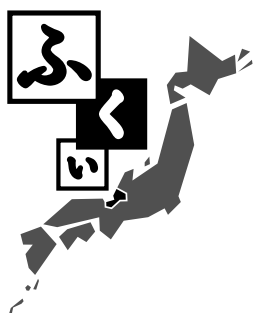
様式第4号(第9条関係)

年 月 日	
福井県自然保護センター所長様 申請者 住所 氏名 法人にあっては、その主たる事務所の 所在地、名称および代表者の氏名	
福井県自然保護センター使用料減免申請書	
福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例第7条の規定により、次のとおり使用料の全部(1部)を免除してくださるよう申請します。	
減免申請の理由	
事業名	
使用施設(設備)	
使用期間	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで
減免を受けようとする額	円

発行日 平成28年12月

編集・発行 福井県自然保護センター
〒912-0131
福井県大野市南六呂師169-11-2
電話 0779-67-1655
Fax 0779-67-1656

印刷 (株)松浦印刷所
電話 0779-66-2357



健康長寿な福井です。



福井県自然保護センター

この冊子は再生紙を使用しています